

令和7年度 標準学力調査（東京書籍）結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2 調査対象の学年

小・義務教育学校第1学年から第6学年

3 調査の内容

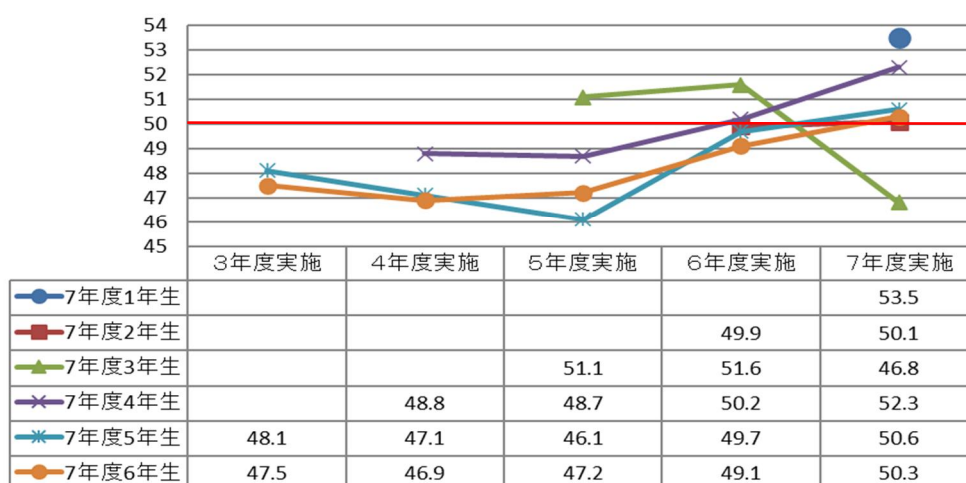
11月までの学習内容（国語・算数）

めざせ！標準スコア（50）超え！！

標準スコアは全国値の正答率を50とした時の換算値です。

	3年度実施	4年度実施	5年度実施	6年度実施	7年度実施
嘉麻市平均	47.0	47.2	48.5	49.8	50.4
標準スコアとの差異	-3.0	-2.8	-1.5	-0.2	+0.4

標準学力分析検査



- 全国平均（標準スコア50）を超えることを目指し、各学校において様々な取組を行ってきた結果、令和7年度は昨年度よりも標準スコアが0.6ポイント上昇し、本調査実施後初めて、50.4ポイントと全国平均を超えることができました。同一集団でみても、3年生以外は、昨年度よりも標準スコアが上がっています。

【成果】

- 教科ごとに見ると、算数科では51.2と、昨年度より0.7ポイント上昇しています。これは、学習内容の定着を短期的に見取り（単元テストを「80点以上の子どもの割合を学級の8割以上、これを全単元の8割達成を目指す」という指標から評価）、定着が図れていない子どもに補充学習を行う取組が有効に働いているからであると考えます。

【課題】

- 国語科は49.6ポイントでした。昨年度より0.5ポイント上昇していますが、全国平均までには至っていません。今後、子どもが授業の主体となる授業づくり、ICTを効果的・効率的に活用した授業づくり等について、学校として更なる組織的な授業改善を図っていく必要があります。

【改善策】

- 各学校において定期的開催される学力向上検証委員会を核とした、組織的な授業改善や学力向上の取組について推進します。
- 効果的である短期的なスパンによる検証改善を継続し、様々な取組を通して基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が図られるとともに、日々の授業の充実が図られるよう指導助言していきます。